

## 申し送り廃止後における情報収集手段の見直しと改善策の提示

15階西 ○岡部宏子 伊勢元 木村 佐々木 幕

### I はじめに

私たち15西病棟では、平成7年9月より申し送りを廃止し2年が経過した。近年、看護の分野では申し送りの短縮・廃止についてのさまざまな研究報告がなされている。そこで、私たちは、申し送り廃止に関する先行研究論文を検索した。その結果、申し送り廃止前後での業務時間の短縮、看護サービスの充実、についての比較検討は多くなされているが、廃止後の情報収集手段の見直しに関するものはなかった。これまで、私たちは現在の業務内容で特に支障なく経過してきた。しかし、現状に満足せず、よりの確に情報を収集し、看護の充実及び継続性を持たせるためには、情報収集手段を振り返り、再検討する必要があるのではないかと考えた。そこで、今回、15西病棟の現状を報告するとともに、より正確でスムーズな情報収集を目指し、問題点の把握、改善点の提示を試みたのでここに報告する。

### II 研究方法

- 研究期間：平成9年6月1日～平成9年11月31日  
対 象：15階西病棟看護婦21名（婦長を除く）  
方 法：①申し送り廃止後に定められた情報収集手段の現状確認  
②現在の情報収集手段について、対象への半構成的質問紙作成、実施  
③質問紙回答内容の分析 回収 100%  
④現状の問題点の把握・改善策の提示

### III 現状報告

#### 15階西病棟

病床総数 45床

（老年科：19床 眼科：17床 神経科：9床）

看護婦 22名

（婦長：1 主任：1 指導係：1 6年目：1  
5年目：6 4年目：2 3年目：4 2年目：  
：5 1年目：1）

勤務体制

3交替制（8° - 16° 16° - 0° 0° - 8°）  
モジュール式看護方式導入

Aチーム（老・8 眼・17）看護婦10名  
Bチーム（老・11 神・9）看護婦10名  
申し送り廃止後に定められた業務内容

①次のことは全体で申し送る

- 日勤；管理、連絡事項  
当日の入院患者、重症患者
- 準夜；管理、連絡事項  
重症患者
- 深夜；管理、連絡事項  
前日の入院患者、重症患者

②チームに別れてカンファレンスを行う。

- ・毎日カンファレンスの担当者を決め、受け持ち患者について話し合う。
- ・カンファレンスノートに内容を記入しておき、問題があれば評価日を決めて後日評価する。

③新人の場合は正しい情報収集及び伝達ができているかを把握するため教育的見地から夜勤の時のみ申し送る。

④送り板としてチーム別にA4サイズ用の紙を準備し、患者ごとに記入欄を設け、勤務ごとに指示変更・一般状態の変化など、次の勤務者に伝えておきたいことを記入する。

⑤床頭メモの設置はADLの自立していない人、記憶力の低下している人などに行い、食事・飲水量、排泄時間などを記入する。

### IV 結果

図1・2より情報収集のための記録は、カードックス・フローシート・送り板は75%以上、叙述記録では48%の人が必要だと答えているにもかかわらず、実際には、処置やケアのためフローシートで81%、叙述記録では100%の人が時間内に書き終わられていないことが明らかになった。さらにそのことと関連して、情報収集がスムーズに進まないと答えた人は71%で、具体的理由として、記録がそろっていないため集中して見る事ができず、勤務の合間合間に情報を取り直さなければならないため、とするものが大半を占めた。現在使用している送り板についても、70%の人が改善点があると考えており、送り板に記載規定がないため、

看護婦により記載内容がさまざまで統一性がなくわかりづらいという意見が多かった。床頭メモについてはその日の経口摂取状況、排泄間隔、最終排泄時間の把握に役立つとする反面、記入もれによる非継続性を指摘する声や設置の基準がないとする意見が多かった。

カンファレンスについては、患者像の把握に役立つなど、43%の人が効果的であると答えた。それに対し効果的でないとする人の意見としては、活発な意見交換がなされていない、継続して評価するところまでしていないなどカンファレンス内容を希薄だと考える声が多かった。また、カンファレンスノートに欠かさず目を通して人は一人しかおらず、ほとんどの人がカンファレンスノートを情報収集源として意識していないということが明らかになった。

図1 勤務前に主に何から情報収集していますか

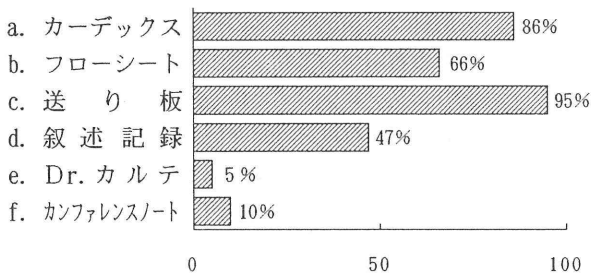


図2 情報収集するための記録は最低限何が必要だと思いますか

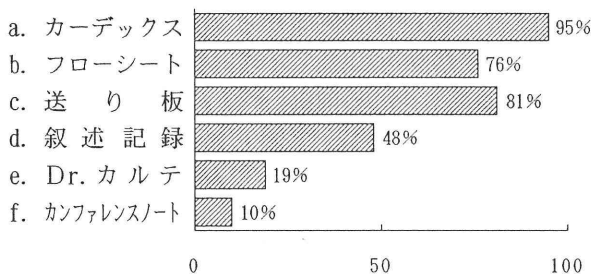
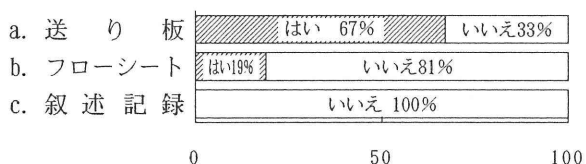


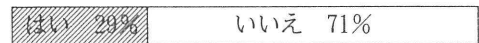
図3 以下の記録は時間内に書き終える事ができますか



〈書き終えることができない理由〉

- ・ケアや処置が時間内に終わらないから

図4 情報収集はスムーズに進みますか



〈スムーズに進まない理由〉

- ・前の勤務者の記録が終わっていない
- ・記録物がそろっていないため、業務の合間に情報を取り直さなければならず時間のロスになる
- ・準夜では日勤者の指示受けと重なり、カーデックスが集中してみられない
- ・記録物からだけでは、自分が得たいと思う情報が得られないことがある

図5 送り板に改善点はあると思いますか



〈改善点を上げて下さい〉

- ・記載規定を設ける
- ・記載内容に情報の連続性を持たせるようにする

図6 床頭メモは効果的に利用されていますか



〈効果的に利用されていると思う理由〉

- ・記銘力の低い人に役立つ
- ・患者の排泄パターンがわかる
- ・深夜の検温時回収して記録できる

〈効果的ではないと思う理由〉

- ・未記入の場合が多い
- ・床頭メモを設置する人の基準がはっきりしておらず必要と思われる人に使用されていないことがある

図7 カンファレンスは効果的に行われていると思いますか



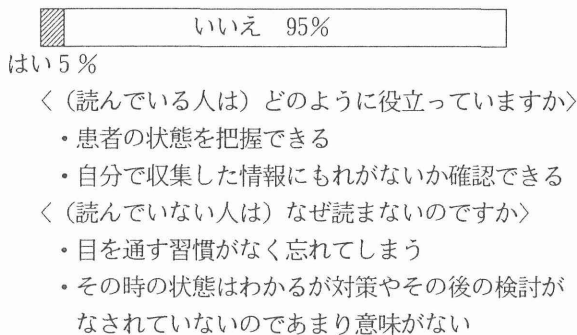
〈効果的に利用されていると思う理由〉

- ・患者の全体像、看護問題につき理解でき統一したケアにつながる
- ・チーム内の協力が高まる

〈効果的ではないと思う理由〉

- ・経過報告にとどまっている感じがする
- ・活発な意見交換がなされていない
- ・目標や今後の方針が決まってもその後どうであったのか評価するところまでできていない

図8 カンファレンスノートはかかさず読んでいますか



## V 考察

以上の結果から、より正確でスムーズな情報収集をするためには、さらなる改善が必要であることがわかった。

フローシートは患者の経過、状態が一目で理解できるものでありスタッフが勤務前に情報収集する手段として必要性の高いものであった。送り板についても同様に必要性が高く、また、比較的時間内に書き終われるとする人が多かった。よって、この二点においては、スタッフの意識づけによって十分時間内での記入が可能ではないかと考える。

床頭メモについては、効果的に利用しているという人が多く、その理由からも、記銘力の低い患者や失見当識のある患者に対し、より正確な情報が得られるものとする。また、活用の目的は個々により異なるが、食事や水分摂取、排泄行動、排泄パターンに関して、より細かな情報を得ることも可能と思われる。さらに、フローシートを訪室ごとに持参するのは困難な面もあり、その点、床頭メモはベッドサイドですぐに記入でき、見ることができるので、情報収集の一手段として有効と考える。そこで、より効果的に活用していくためには、設置基準を設けることが必要ではないだろうか。また、記入もれを指摘する声もあることから、各患者ごとに活用目的を明確にし、一人一人が有効性を認識し行動することも必要であると思われる。

カンファレンスノートは、患者の全体像や、現在重

要視されている問題についての情報を短時間で収集するための手段として有効であると考えられる。しかし、実際に情報源として活用していると答えた人は一人のみであり、カンファレンスが効果的でないとする意見と合わせて考えてみると、カンファレンス内容そのものを充実させ、看護方針やケアを明確に提示していくことが必要ではないだろうか。そして、カンファレンスに対する意識を高めていくことで、カンファレンスノートが有効な情報源として意識づけされていくものと思われる。

松田は、『記録は、みんなが共有できる情報源であり、伝達の中で重要な手段である』<sup>1)</sup>と言っている。私たちが、正確に患者像を把握し継続性のある看護を展開するためには、いかに情報を認識できるかにかかっている。そのための一手段としての申し送りを廃止した今、記録の充実が重要視されることは言うまでもない。よって、私たち一人一人が記録物の記入もれ、記入間違いがケアの非統一性、看護事故につながることを十分自覚し慎重にならなければならない。また西嶋は、『看護の第一歩は、患者に関する情報の認知から始まる。情報はしっかり観ないと何も観えない。観えていないと拾えない。そのためには関連する知識と患者へ関心を持つこと、いわゆる目的意識をもって看護を実践することである。』<sup>2)</sup>と言っている。以上のことから、患者を理解し看護を行っていくためには、知識を深め、問題意識を持つことが必要とされる。そして、情報は与えられるものではなく、自ら集めるものであると考え、スタッフ一人一人が積極的に情報収集する姿勢が、重要になってくると思われる。

以上の考察の結果、改善策を以下に記す。

①送り板、フローシートは勤務時間内に記入を済ませる。

②送り板には、記載規定を設ける。

③床頭メモの設置基準を設ける。

活用目的を明確にし、有効性を認識して行動することにより記入もれをなくす。

④カンファレンス内容はこれまでと同様にノートに書き留め、情報源として活用していく。

カンファレンスノートを有効に活用するため、まずはカンファレンス内容の充実を図る。

今回の研究を進めるにあたり、記録物に関してはケアに入る前の患者の把握に必要な情報源として、送り板、フローシート、床頭メモ、カンファレンスノートの方に着目したが、ケアの実際に必要な問題リスト、看護計画についても振り返り、検討していく必要がある。

ったと思われる。さらに、送り板、フローシート以外の記録物も、時間内に書き終わられるよう、業務内容の見直しも行っていきたい。また、スタッフ間の知識や経験に関連した情報収集能力の統一にも目を向けていかなければならないだろう。

## VI おわりに

本研究により、スタッフ一人一人が自らの情報収集手段を振り返るよい機会となった。今回は、上記の改善策、今後の課題を明確にするにとどまり実施には至らなかった。今後、これらの改善策を実施し、明確となった課題について検討を重ね、看護の質の向上に向け前進していきたい。

## VII 謝辞

この研究を進めるにあたり、御協力、御指導して下さいました。さった婦長始め15階西病棟スタッフの皆様へ深く感謝いたします。

### <引用文献>

- 1) 松田明子：申し送りが有効に活用されるには 看護展望 vol.16 No.3 P.26 1991
- 2) 西嶋房子、他：申し送りの改善から看護記録の充実を図る 看護実践の科学 vol.17 No.5 P.31～36

### <参考文献>

- 1) 鶴田早苗：看護記録・申し送りの本質から見た改善の考え方 看護展望 vol.18 No.2 P.99～102 1993

2) 松田英子、他：申し送り廃止後の情報収集および意識の変化に関する調査 看護管理 vol.25 P.143～145 1994

／ ( ) Bモジュール(持ちベッド順) 日→準→深

51			
52			
53			
55			
65			
66			
68			

### <アンケート>

当病棟の申し送りは、廃止してから2年経過しましたが、業務・記録が充実しているか見直し、今後、改善していきたいと考えているため、アンケートを取らせていただきましたと思います。

～調査対象者～ 15階西病棟看護婦

- (1) あなたは勤務前に主に何から情報収集していますか？  
a. カーデックス b. フローシート c. 送り板  
d. 叙述記録 e. Dr カルテ f. カフォルスノート  
g. その他 ( )
- (2) 情報収集するための記録は最低限何が必要だと思いますか？  
a. カーデックス b. フローシート c. 送り板  
d. 叙述記録 e. Dr カルテ f. カフォルスノート  
g. その他 ( )
- (3) おもに情報収集はいつ行っていますか？  
a. 勤務前 b. 勤務が始まってから  
c. どちらもあてはまる
- (4) 情報収集は、スムーズにすすみますか？  
a. はい b. いいえ
- (5) (4)でb. と答えた方は理由は何ですか
- (6) 情報収集するのにどれくらい時間がかかっていますか？  
( )分
- (7) 送り板に改善点はあると思いますか？  
a. はい b. いいえ

(8) (7)でa. と答えた方は改善点をあげてください。

(9) 以下の記録は時間内に書き終わることができていますか？

1. 送り板 (a. はい b. いいえ)
2. フローシート (a. はい b. いいえ)
3. 叙述記録 (a. はい b. いいえ)

(10) (9) (1～3)で、bと答えた方は理由は何ですか。

(11) 床頭メモを現在使用していますが、効果的に利用されていますか？

- a. はい b. いいえ

(12) (11)で答えた理由は何ですか。(a・bと答えた方どちらも)

(13) カンファレンスは効果的に行われていると思いますか？

- a. はい b. いいえ

(14) (13)で答えた理由は何ですか。(a・bと答えた方どちらも)

(15) カンファレンスノートをかかさず読んでいますか？

- a. はい b. いいえ

(16) (15)でaと答えた方、カンファレンスノートはどのように役立っていますか？

(17) (15)でbと答えた方は、何故読んでいないのですか？

☆ご協力ありがとうございました